



エコアクション21
認証番号 0011154

2018年度 環境活動レポート

<対象期間：2018年10月 ～ 2019年9月>



株式会社 タムラ

2020年2月18日 発行

1. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 タムラ
代表取締役 田村 清孝

(2) 事業所の所在地

本 社（登記住所） 千葉県鴨川市滑谷 7 7 7 番地
 マツダオートザム鴨川・修理部・総務 千葉県鴨川市滑谷 6 8 番地 1
 マツダオートザム館山 千葉県館山市高井 8 0 0 番地 1
 重機土木部・重機修理部・钣金塗装部 千葉県鴨川市滑谷 6 9 0 番地 2
 自動車リサイクル部 千葉県鴨川市坂東 3 7 0 番地 2
 石油部 千葉県鴨川市滑谷 7 6 3 番地 1, 7 6 9 番地

(3) 設立年・事業規模

設立年 1 9 6 3 年 1 0 月 1 日
 資本金 1, 0 0 0 万円
 事業年度 1 0 月～9 月
 売上総額 1, 2 0 4 百万円

2018/10 ~ 2019/09

総称	部署および事業所	従業員数	延床面積	売上高 (百万円)
① M A Z 鴨川	マツダオートザム鴨川	3名	290.6㎡	346
	修理部・総務	13名	400.9㎡	
	钣金塗装部	3名	238.9㎡	
② M A Z 館山	マツダオートザム館山	8名	419.0㎡	233
③ 重機土木事業部	重機・土木部	21名	3471.9㎡	477
	重機修理部	2名		
④ リサイクル事業部	自動車リサイクル部	6名	3,850.5㎡	48
⑤ 石油事業部	石油部	3名	626.1㎡	100

(4) 事業内容

- ① マツダオートザム鴨川、② マツダオートザム館山
自動車車検整備、一般修理、自動車钣金塗装、新車・中古車販売、保険代理店業務
- ③ 重機土木事業部
建設機械リース、建設機械点検修理、土木工事
- ④ リサイクル事業部
自動車解体業及び自動車解体部品販売
- ⑤ 石油事業部
石油類販売、レンタカー

(5) 事業詳細

- ③ 重機土木事業部
 建設業許可 千葉県知事許可（般-27）第 34135 号
 建設業の種類 土木工事業、とび・土工工事業
 有効年月日 令和 2 年 7 月 30 日
 業務実績（2018 年度）
 浄化槽設備工事およびシートパイル工事 7 1 件
 シートパイル打設工事 4 1 件
 クレーンおよびコンクリートポンプ車リース 2, 8 4 6 件

④ リサイクル事業部

自動車リサイクル法にもとづく許可の内容

- (1) 解体業 許可番号：第 20123001327 号（千葉県知事）
許可年月日：平成 23 年 4 月 18 日
許可に有効年月日：平成 33 年 4 月 17 日
- (2) 破砕業 許可番号：第 20124001327 号（千葉県知事）
許可年月日：平成 23 年 4 月 18 日
許可に有効年月日：平成 33 年 4 月 17 日
- (3) 引取り業者登録番号：第 20121001327 号（千葉県知事）
登録年月日：平成 23 年 4 月 18 日
登録有効年月日：平成 33 年 4 月 17 日
- (4) フロン類回収業者登録番号：第 20122001327 号（千葉県知事）
登録年月日：平成 23 年 4 月 18 日
登録有効年月日：平成 33 年 4 月 17 日

業務実績（2018 年度）

廃車入庫台数 720 台
解体処理台数 730 台

(6) 環境管理責任者及びエコアクション2.1推進委員

環境管理責任者

- ① マツダオートザム鴨川 総務 小原 好一 TEL:04-7093-1121
推進委員
- ② マツダオートザム館山 営業 末吉 亮 TEL:0470-24-0721
推進委員
- ③ 重機土木事業部 課長 佐野仁昭 TEL:04-7093-1127
推進委員
- ④ リサイクル事業部 工場長 若菜昭宏 TEL:04-7093-1315
推進委員
- ⑤ タムラ事業部 所長 笠井昭宏 TEL:04-7093-4295

2. エコアクション21対象範囲

事業者名

株式会社タムラ

事業所所在地

マツダオートザム鴨川・修理部	千葉県鴨川市滑谷68番地1
マツダオートザム館山	千葉県館山市高井800番地1
重機土木部・重機修理部・钣金塗装部	千葉県鴨川市滑谷690番地2
自動車リサイクル部	千葉県鴨川市坂東370番地2
石油部	千葉県鴨川市滑谷763番地1, 769番地
本社（登記住所の為対象外）	千葉県鴨川市滑谷777番地

事業活動

自動車車検整備、一般修理、自動車钣金塗装、新車・中古車販売、
保険代理店業務、建設機械リース、建設機械点検修理、土木工事、
自動車解体業及び自動車解体部品販売、石油類販売、レンタカー

対象事業所

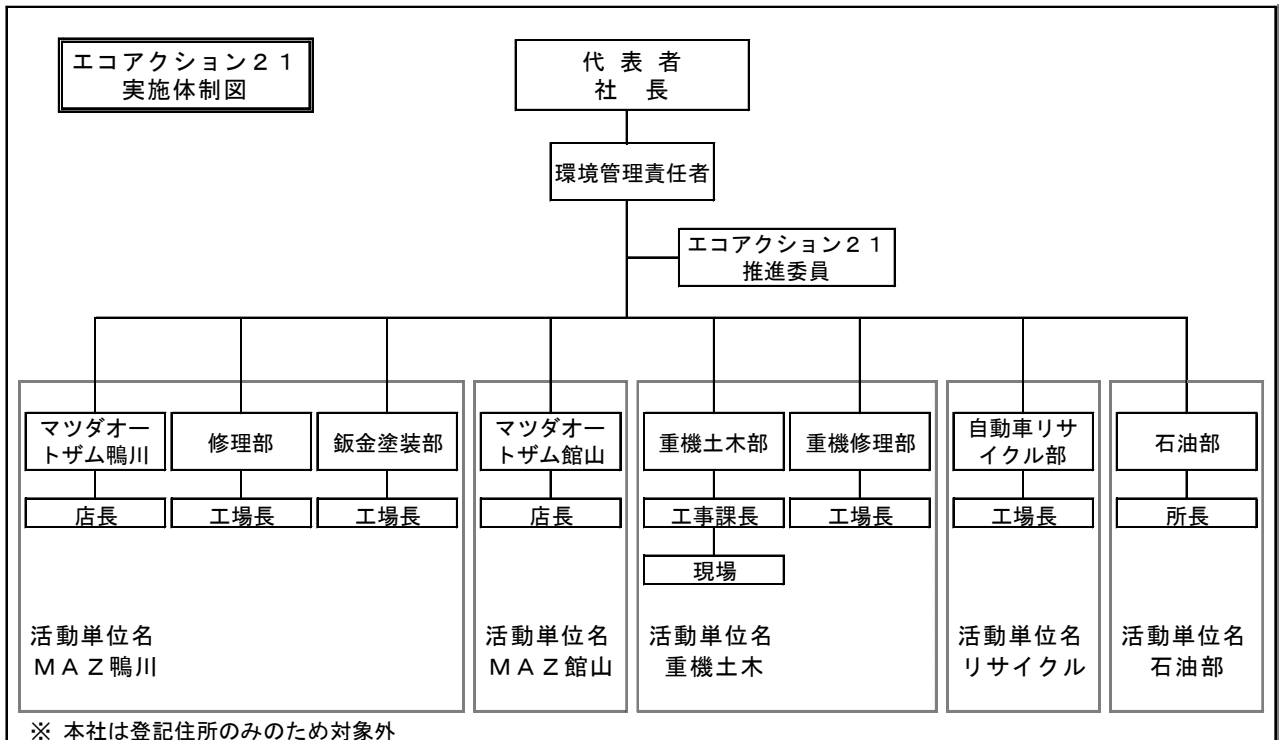
マツダオートザム鴨川・修理部、マツダオートザム館山、
重機土木部・重機修理部・钣金塗装部、自動車リサイクル部、石油部
※当社が取り組むエコアクション21環境活動は、当社の全組織・全活動・全従業員
を対象としています。

認証番号及び認証登録日

認証・登録番号：0011154
認証・登録日：2016年3月28日

3. エコアクション21実施体制

(1) エコアクション21実施体制図



(2) 役割・責任・権限

代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な『人、設備、費用、時間、技能、技術者』を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの作成、公開 ・環境活動の実績集計 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
エコアクション21推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標・環境活動計画書原案の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境目標・環境活動計画書を確認 ・環境活動レポートの確認
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する環境訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の計画、実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動への参加

環境経営方針

株式会社タムラは、全従業員が日々の企業活動である自動車販売、点検修理、建設重機リース、土木工事、自動車リサイクル、石油類販売、レンタカー、損害保険代理業等を行う中で、次世代に豊かな地球環境を引き継ぐことを目指し、自然と調和を図りながら地球環境の保護と豊かな社会づくりに貢献します。

地球環境保全を経営の重要課題と捉え、環境経営システムを構築運営し、全従業員一丸となり積極的に環境への取り組みを継続的に推進します。

1. 環境に関する法規制を遵守します。
2. 限りある資源を大切にし、また二酸化炭素排出量の削減のため節電や車両使用時にはエコ運転に努めます。
3. 循環型社会に向けて、廃棄物の削減・分別・再使用・再利用活動を推進します。
4. 水の使用量を把握し、上下・地下水の節水・排水量の削減に努めます。
5. 塗装や自動車整備に使用する化学物質の適正管理に努めます。
6. 低燃費・排出ガス車やリサイクル部品、エコオイルなど環境に配慮した製品の提供及びグリーン購入を推進します。
7. 環境改善目標を定め、継続的な環境改善活動を実践します。
8. 全従業員に、この「環境経営方針」を周知徹底するとともに、環境活動レポートを作成し公表します。

制定日：2013年 9月30日
改訂日：2019年10月30日

代表取締役社長

田村 清孝



5. 環境目標

(1) 環境負荷の現状

(2018年10月～2019年9月)

項目		使用量	排出量
温室効果ガス排出量			625,285.9 kg-co2
電力 化石燃料	電力	126,718.0 kWh	61,584.9 kg-co2
	ガソリン	29,504.5 ㍓	68,450.3 kg-co2
	軽油	189,635.5 ㍓	489,259.5 kg-co2
	灯油	2,336.1 ㍓	5,816.9 kg-co2
	液化石油ガス (LPG)	176.0 m ³	174.2 kg-co2
リサイクル車の 自動車の	収集運搬量		936.0 t
	中間処理量		949.0 t
	うち再資源化等量		639.0 t
	中間処理後の産廃排出量		5.7 t
	最終処分量		0.0 t
廃棄物総排出量			20.4 t
一般廃棄物排出量 (焼却)			3.0 t
産業廃棄物量 (再資源化)			17.4 t
水の排出量			3,067.1 m ³
上水由来			1,026.0 m ³
地下水由来			2,041.1 m ³
化学物質使用量			421.3 kg
トルエン			174.3 kg
酢酸ブチル			78.7 kg
キシレン			28.1 kg
エチルベンゼン			140.3 kg

※産業廃棄物については、有価にて処理をしている為、現状実績のみ記載します。

※購入電力の排出係数については、国が公表する2016年度の東京電力エナジーパートナー株式会社の調整後排出係数0.486 kg-CO₂/kWhを使用する。

(2) 環境目標 (全体)

項目		単位	基準年実績	目標		
				2017年度	2018年度	2019年度
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂	638,259	631,876	625,494	619,111
		基準年比	(2016年度)	99%	98%	97%
電力		kWh	132,941	131,612	130,282	128,953
		基準年比	(2016年度)	99%	98%	97%
化石燃料	ガソリン	ℓ	27,897	27,618	27,339	27,060
		基準年比	(2016年度)	99%	98%	97%
	軽油	ℓ	190,812	188,904	186,996	185,088
		基準年比	(2016年度)	99%	98%	97%
	灯油	ℓ	3,264		3,199	3,166
		基準年比	(2017年度)		98%	97%
廃棄物総排出量						
一般廃棄物量		kg	3,195	3,163	3,131	3,099
		基準年比	(2016年度)	99%	98%	97%
産業廃棄物量 (再資源化率の向上)		%	96		96%以上	96%以上
		基準年比	(2017年度)		100%	100%
水の排出量		m ³	2,589	2,563	2,537	2,511
グリーン購入比率向上		%	80	80%以上	81%以上	81%以上
		基準年比	(2016年度)	100%	101%	101%
本業に係る環境配慮						
MAZ鴨川	化学物質使用量の削減	kg	198	196	194	192
		基準年比	(2016年度)	99%	98%	97%
MAZ鴨川	低燃費・低排出ガス車登録比率向上	%	65	67%以上	70%以上	72%以上
		基準年比	(2016年度)	103%	108%	111%
MAZ館山	低燃費・低排出ガス車登録比率向上	%	82	85%以上	87%以上	88%以上
		基準年比	(2016年度)	104%	106%	107%
重機土木	建設機械の自主点検整備実施率の向上	%	100	100%	100%	100%
		基準年比	(2016年度)	維持	維持	維持
リサイクル	解体のための入庫台数の増加促進	台	860	869	877	886
		基準年比	(2016年度)	101%	102%	103%
石油部	スタンダードのゴミ分別の実施率向上	%	100	100%	100%	100%
		基準年比	(2016年度)	維持	維持	維持
軽油原単位管理						
重機土木	【車両】走行距離による燃費測定	km/ℓ	1.011	1.021	1.032	1.042
		基準年比	(2016年度)	101%	102%	103%
重機土木	【重機】稼働時間による燃費測定	hr/ℓ	0.129	0.130	0.131	0.133
		基準年比	(2016年度)	101%	102%	103%
リサイクル	入庫台数及び解体車両台数による燃費	台数/kℓ	104.4	105.4	106.4	107.5
		基準年比	(2016年度)	101%	102%	103%
リサイクル	【車両】走行距離による燃費測定	km/kℓ	3,427	3,461	3,495	3,530
		基準年比	(2016年度)	101%	102%	103%
リサイクル	【重機】稼働時間による燃費測定	hr/kℓ	85.5	86.3	87.2	88.0
		基準年比	(2016年度)	101%	102%	103%

※化学物質の排出量、移動量は適切に管理していることを、定期的に確認する。

※一般廃棄物量、地下水の排出量については今後使用量の把握を行う。

※購入電力の排出係数については、国が公表する2016年度の東京電力エナジーパートナー株式会社の調整後排出係数 0.486 kg-CO₂/kWh を使用する。

6.環境活動計画

◆ 二酸化炭素排出量の削減

電力使用量の削減

MAZ鴨川	<ul style="list-style-type: none"> 空調温度を適切な温度設定にする。 照明、パソコン等の機器類の電源管理をする。 「緑のカーテン」で夏場の室温上昇を抑える。 	<ul style="list-style-type: none"> 空調フィルターの定期清掃をする。
MAZ館山	<ul style="list-style-type: none"> 店舗照明のゾーン、時間帯管理 エアコン温度設定の徹底 	
重機土木部	<ul style="list-style-type: none"> 不要な電気のスイッチは切る。 パソコンの電源管理 	<ul style="list-style-type: none"> コンプレッサーの電源管理
リサイクル部	<ul style="list-style-type: none"> パソコン、コピー機等のOA機器を省電力設定にする。 夏季における軽装、冬季における重ね着の工夫。 空気圧縮機の圧力。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務室、工事等の照明、不使用時の消灯。
石油部	<ul style="list-style-type: none"> 店舗照明の時間帯管理 エアコン温度の設定 夏季28℃より 必要以上の電源を切る 	(4月～10月 18:30～／11月～3月 16:00～)

燃料使用量の削減

MAZ鴨川	<ul style="list-style-type: none"> アイドリングストップを行う。 エコドライブを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 顧客先でのアイドリングストップの厳守 法定速度の遵守及び空ぶかしの禁止
MAZ館山	<ul style="list-style-type: none"> 社用時エコドライブ実施 代車用事（対お客さま） 	<ul style="list-style-type: none"> エコドライブのお願い。 返却時満タン返しをお願いします。
重機土木部	<ul style="list-style-type: none"> 現場移動時のエコ運転 	<ul style="list-style-type: none"> 揚重作業中のアクセルワークの注意
リサイクル部	<ul style="list-style-type: none"> アイドリングストップ等エコドライブの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 使用済み車引取時の効率的ルート選択と段取り
石油部	<ul style="list-style-type: none"> 社用時のエコドライブ実施 	<ul style="list-style-type: none"> 配達時、給油以外はエンジンを切る。

◆ 廃棄物排出量の削減

MAZ鴨川	<ul style="list-style-type: none"> 紙類（機密文書・個人情報等）の適正処理の徹底。 紙の使用量の抑制 書類の簡素化・ペーパーレス化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 裏紙使用・両面印刷・両面コピーの推進
MAZ館山	<ul style="list-style-type: none"> 紙類の再利用 一般ゴミの分別、圧縮廃棄 事務処理のペーパーレス推進 	<ul style="list-style-type: none"> 裏紙の使用／段ボールの再利用
重機土木部	<ul style="list-style-type: none"> ごみの分別 コピー用紙の裏紙活用 	<ul style="list-style-type: none"> ごみの持ち込みをしない。
リサイクル部	<ul style="list-style-type: none"> 段ボールの再利用 	<ul style="list-style-type: none"> 他事業部の段ボールを梱包材として再利用する。
石油部	<ul style="list-style-type: none"> 紙類の再利用 一般ゴミの分別、圧縮廃棄 事務処理のペーパーレス推進 	<ul style="list-style-type: none"> 裏紙の使用／段ボールの再利用

◆ 水使用量の削減

全事業部	<ul style="list-style-type: none"> 地下水の使用量を把握する。 手元ノズル等を使用しこまめに節水する。 「節水ステッカー」を表示し注意を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 地下水ポンプに流量計を設置する。
------	---	--

◆ 化学物質使用量の削減

MAZ鴨川	<ul style="list-style-type: none"> 使用量の把握 	<ul style="list-style-type: none"> 化学物質の適正な管理
-------	--	--

◆ グリーン購入の推進

全事業部	<ul style="list-style-type: none"> 事務用品、消耗品購入時は「エコマーク」を優先する。
------	---

◆ 製品及びサービスにおける環境配慮

MAZ鴨川 MAZ館山	<ul style="list-style-type: none"> 低燃費、低排出ガス車の販売増に努める。 SKYACTIV、アイドリングストップ車の販売比率を高める。 環境配慮型自動車保険の提案に努める。
----------------	---

※各事業部から発生する産業廃棄物のうち廃油・廃LLCは車両の点検整備結果として発生するため、削減目標と計画の策定は行わず適正保管と適正処理業者へ排出する。

廃プラスチック、廃金属等はリサイクル部へまとめて運搬し、中間処理後、再利用できない分を産業廃棄物として排出する。

※お客さま車両の洗車等に使用する地下水の使用量削減については、2013年11月設置の水量計で現状を把握する。

※一般廃棄物の排出量については、2014年8月から秤を使用して現状を把握する。

※再生可能エネルギーの太陽光発電をMAZ館山に設置し、東京電力に売電している。

※グリーン購入は、購入資材アイテム数に対するエコマークアイテムの比率で集計。

※低燃費・低排出ガス車登録比率は、車両販売数に対するアイドリングストップ・SKYACTIV搭載車の比率をいう。

7. 環境目標の実績

(2018年10月～2019年9月)

集計単位	二酸化炭素 排出量 kg-CO2	電力 kWh	ガソリン ℓ	軽油 ℓ	灯油 ℓ	廃棄物排出量		水の 使用量 m ³	グリーン購入 実施率 %	
						一般 kg	産廃再資源化 %			
全体	基準	638,259	132,941	27,897	190,812	3,264	3,195	96%	2,589	80%
	目標	625,494	130,282	27,339	186,996	3,199	3,131	96%	2,537	81%以上
	実績	625,286	126,718	29,504	189,635	2,336	2,945	93%	3,067	82%
	増減率	100%	97%	108%	101%	73%	94%	97%	121%	101%
	評価	○	○	×	×	○	○	×	×	○
MAZ鴨川	基準	43,460	43,818	4,958	2,171	1,989	895	—	300	81%
	目標	42,591	42,942	4,859	2,128	1,949	877	—	294	85%以上
	実績	56,616	46,475	10,382	2,083	1,693	888	—	563	93%
	増減率	133%	108%	214%	98%	87%	101%	—	192%	109%
	評価	×	×	×	○	○	×	—	×	○
MAZ館山	基準	26,093	25,339	5,046	581	216	547	—	647	56%
	目標	25,832	24,832	4,945	569	212	536	—	635	63%以上
	実績	19,340	20,170	3,232	629	154	540	—	656	68%
	増減率	75%	81%	65%	111%	73%	101%	—	103%	108%
	評価	○	○	○	×	○	×	—	×	○
重機土木	基準	503,446	35,423	16,722	170,484	0	1,491	—	486	89%
	目標	493,371	34,715	16,388	167,074	0	1,461	—	476	85%以上
	実績	494,777	31,078	14,229	173,124	0	1,260	—	533	94%
	増減率	100%	90%	87%	104%	-	86%	—	112%	111%
	評価	×	○	○	×	—	○	—	×	○
リサイクル	基準	47,822	7,494	83	16,693	72	45	—	149	80%
	目標	46,865	7,344	81	16,359	71	44	—	146	85%以上
	実績	39,441	7,037	301	13,551	95	47	—	59	40%
	増減率	84%	96%	370%	83%	135%	106%	—	40%	47%
	評価	○	○	×	○	×	×	—	○	×
石油部	基準	17,444	20,867	1,088	883	987	217	—	1,006	100%
	目標	17,095	20,450	1,066	865	967	213	—	986	85%以上
	実績	15,466	21,958	1,360	248	394	211	—	1,256	100%
	増減率	90%	107%	128%	29%	41%	99%	—	127%	118%
	評価	○	×	×	○	○	○	—	×	○

集計単位	本業に係る環境配慮	単位	基準年実績	年度目標	実績	評価
MAZ鴨川	化学物質使用量の削減	kg	198	194	421	×
		基準年比		99%	217%	
	低燃費・排出ガス車登録比率の向上	%	65%	70%	61%	×
基準年比			108%	87%		
MAZ館山	低燃費・排出ガス車登録比率の向上	%	82%	87%	86%	×
		基準年比		106%	99%	
重機土木	建設機械の自主点検整備の実施率向上	%	100%	100%	100%	○
		基準年比		100%	100%	
リサイクル	解体のための入庫台数の増加促進	台	860	877	720	×
		基準年比		102%	82%	
石油部	スタンダードのゴミ分別の実績率向上	%	100%	100%	100%	○
		基準年比		100%	100%	

集計単位	軽油原単位管理	単位	基準年実績	年度目標	実績	評価
重機土木	【車両】走行距離による燃費測定	km/ℓ	1.011	1.032	1.114	○
		基準年比		102%	110%	
	【重機】稼働時間による燃費測定	hr/ℓ	0.129	0.131	0.118	×
基準年比			102%	92%		
リサイクル	入庫台数及び解体車両台数による燃費	台数/kℓ	104.4	106.4	107.0	○
		基準年比		102%	103%	
	【車両】走行距離による燃費測定	km/kℓ	3,427	3,495	3,431	×
		基準年比		102%	100%	
	【重機】稼働時間による燃費測定	hr/kℓ	85.5	87.2	90.0	○
基準年比			102%	105%		

8. 環境活動計画の取組結果とその評価

(1) 全体（組織全体）

エコアクション21環境活動を開始して6年目、認証取得し本年度で5年となりました。今年度よりガイドライン2017年度版による取組を行いました。

取組結果ですが、組織全体で二酸化炭素排出量の削減は、活動を開始して6年で初めて目標達成となり、今までの一つ一つの積み重ねが成果に繋がったのではないかと思います。ただし、二酸化炭素排出量の割合が全体の約9割を占める自動車および重機燃料（ガソリン、軽油）の削減が目標未達成であったことは残念です。特に主に使用している重機土木部門およびリサイクル部門での削減が今後の重要事項となります。そして、水の使用量についても目標未達成となり、昨年同様にMAZ鴨川の地下水浄化システム導入による増加、石油部での洗車機使用回数増加が目標未達成の要因と考えられます。基準値の見直し及び、洗車機使用回数での水使用量の原単位管理を行いたいと思います。

来年度も引続き環境負荷の削減に努めていきたいと思います。

(2) MAZ 鴨川

二酸化炭素排出量は目標に対し33%の増加。電気使用量の削減は8%の増加、ガソリン使用量の削減は114%の増加、軽油使用量の削減は2%の削減、灯油使用量の削減は13%の削減、水の使用量は92%の増加です。多くの項目で目標未達成となりました。目標未達成要因は、電力は昨年同様にエアコン稼働の増加とリコール等による作業量増加および、外灯の点灯および消灯時間の適時設定の遅れによるものと考えられます。自動車燃料については社用車の計上漏れが判明したため今季より計上した為に増加したものです。水の使用量は昨年同様に地下水の浄化システム導入による増加と考えられます。今年度の実績を基に目標値の設定を行います。

(3) MAZ 館山

二酸化炭素排出量は目標に対し25%の削減。電気使用量の削減は19%の削減、軽油使用量の削減は11%の増加、水の使用量の削減は3%の増加です。二酸化炭素排出量の削減は、目標達成いたしました。ただし、軽油使用量はロードサービス出動の増加、昨年同様にディーゼル車販売台数の増加によるものと考えられます。水の使用量は洗車機利用回数の増加によるものと考えられます。

(4) 重機・土木部

二酸化炭素排出量は目標に対し0.3%の増加。軽油使用量は4%の増加。水の使用量は12%の増加、その他項目については、目標達成することができました。

軽油使用量ですが、昨年同様に遠方作業の増加および仕事量の増加によるものと考えられます。売上増加に伴い軽油の使用量も増加傾向にあります。ただし、二酸化炭素排出量の割合が全体の約9割を占める軽油使用量ですので、出来るだけの削減を目指す必要がある為、引続き「エコ運転、丁寧なアクセルワーク」を心がけるように徹底をしていきたいと思います。

(5) リサイクル部

二酸化炭素排出量は16%の削減。電気使用量は4%の削減、軽油使用量は17%の削減と目標達成となりました。ただし、ガソリン使用量、灯油使用量、一般廃棄物の削減については目標未達成となりました。リサイクル部でも二酸化炭素排出量の内、全体の約9割を軽油使用量が占めています。今年度は、この軽油使用量の削減ができたことが二酸化炭素排出量の削減に繋がったと思います。

引続き解体の為の入庫台数の増加促進、「エコ運転、丁寧なアクセルワーク」を心がけるように徹底をしていきたいと思います。

(6) 石油部

二酸化炭素排出量は目標に対し10%の削減。目標達成となりました。ただし、電力使用量、ガソリン使用量、水の使用量の削減については目標未達成となりました。

水の使用量は目標に対し27%の増加となりましたが、昨年同様に洗車機の使用回数の増加が大きな要因です。次年度は基準値の見直しを行い、引続き節水の徹底を行いたいと思います。

ガソリン使用量は、28%の増加です。要因として燃料の配達の増加等がありました。

9. 次年度の取組

更なる環境負荷の削減を目指し、以下の取組みを重点的に行う。

- ・エコ運転、丁寧なアクセルワークの徹底
- ・節水の徹底
- ・基準値の見直し

◀ 次年度環境目標 ▶

項目		単位	基準年実績	目標		
				2017年度	2018年度	2019年度
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂	638,259	631,876	625,494	619,111
		基準年比	(2016年度)	99%	98%	97%
電力		kWh	132,941	131,612	130,282	128,953
		基準年比	(2016年度)	99%	98%	97%
化石燃料	ガソリン ※1	ℓ	29,505			29,210
		基準年比	(2018年度)			99%
	軽油	ℓ	190,812	188,904	186,996	185,088
		基準年比	(2016年度)	99%	98%	97%
灯油	ℓ	3,264		3,199	3,166	
	基準年比	(2017年度)		98%	97%	
廃棄物総排出量						
一般廃棄物量		kg	3,195	3,163	3,131	3,099
		基準年比	(2016年度)	99%	98%	97%
産業廃棄物量（再資源化率の向上）		%	96		96%以上	96%以上
		基準年比	(2017年度)		100%	100%
水の排出量 ※2		m ³	3,067			3,036
		基準年比	(2018年度)			99%
グリーン購入比率向上		%	80	80%以上	81%以上	81%以上
		基準年比	(2016年度)	100%	101%	101%
本業に係る環境配慮						
MAZ鴨川	化学物質使用量の削減	kg	198	196	194	192
		基準年比	(2016年度)	99%	98%	97%
MAZ館山	低燃費・低排出ガス車登録比率向上	%	65	67%以上	70%以上	72%以上
		基準年比	(2016年度)	103%	108%	111%
重機土木	建設機械の自主点検整備実施率の向上	%	82	85%以上	87%以上	88%以上
		基準年比	(2016年度)	104%	106%	107%
リサイクル	解体のための入庫台数の増加促進	台	860	869	877	886
		基準年比	(2016年度)	101%	102%	103%
石油部	スタンドヤードのゴミ分別の実施率向上	%	100	100%	100%	100%
		基準年比	(2016年度)	維持	維持	維持
軽油原単位管理						
重機土木	【車両】走行距離による燃費測定	km/ℓ	1.011	1.021	1.032	1.042
		基準年比	(2016年度)	101%	102%	103%
リサイクル	【重機】稼働時間による燃費測定	hr/ℓ	0.129	0.130	0.131	0.133
		基準年比	(2016年度)	101%	102%	103%
リサイクル	入庫台数及び解体車両台数による燃費	台数/kℓ	104.4	105.4	106.4	107.5
		基準年比	(2016年度)	101%	102%	103%
	【車両】走行距離による燃費測定	km/kℓ	3,427	3,461	3,495	3,530
		基準年比	(2016年度)	101%	102%	103%
【重機】稼働時間による燃費測定	hr/kℓ	85.5	86.3	87.2	88.0	
	基準年比	(2016年度)	101%	102%	103%	
水原単位管理						
石油部	洗車機使用回数による水使用量 ※3	回数/m ²				現状把握
		基準年比	(2018年度)			

※1 ガソリン使用量 該当部署：マツダオートザム鴨川、リサイクル部

※2 水使用量 該当部署：マツダオートザム鴨川

※3 2019年度より水排出量の原単位管理を開始

10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反訴訟の有無

(1) 環境関連法規等の遵守状況の評価

法規制等の名称	要求事項	担当部署	評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法)	<ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物収集業者の許可証確認 産廃収集運搬・処理業者との契約、許可証確認 マニフェストの交付、管理 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出 自社による運搬時の表示、書類携行 	全事業場	○
使用済み自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	<ul style="list-style-type: none"> 使用済み自動車の引取・フロン類回収・解体・破砕業者登録及び許可／登録／更新 	リサイクル部	○
	<ul style="list-style-type: none"> 再資源化預託金(自動車リサイクル料金)の預託有無の確認と、預託金の徴収 	MAZ 鴨川・MAZ 館山・リサイクル部	○
道路運送車両法	<ul style="list-style-type: none"> 各工程移動時、移動報告の実施(電子マニフェストの管理) 	リサイクル部	○
	<ul style="list-style-type: none"> 道路運送車両の保安基準 道路運送車両の点検及び整備 道路運転車両の検査等 	MAZ 鴨川・MAZ 館山・重機土木部	○
自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量削減等に関する特別措置法 (自動車NOx・PM法)	<ul style="list-style-type: none"> 規制対象地域内の適合車による運行 規制対象特定地域への対象車両通行禁止 対象自動車を使用する事業者による計画の作成、定期の報告 周辺地域内自動車を使用する事業者による計画の作成、定期の報告 	全事業場	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (PTR法)	第1種指定化学物質の排出量、移動量の記録 年間総排出量、移動量が1,000kg以上あれば報告	MAZ 鴨川・MAZ 館山・重機土木部	○
浄化槽法	公共用水域等の水質保全等の観点から、浄化槽の設置、保守点検、清掃を行う。	全事業場	○
騒音規制法	指定地域における時間帯別騒音レベルの遵守	全事業場	○
振動規制法	指定地域における時間帯別振動レベルの遵守	全事業場	○
水質汚濁防止法	排水濃度の測定・記録 事故時の措置届出	全事業場	○
大気汚染防止法	低排出ガス車の運用と販売	全事業場	○
特定特種自動車排出ガスの規制等に関する法律 (オフロード法)	<ul style="list-style-type: none"> 適正な燃料の使用 急発進・急加速・急操作の排除 不要な空ぶかしの禁止 停止の際のアイドリングストップ励行 	重機土木部・リサイクル部	○
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> 第一種特定製品の管理者の義務 第一種特定製品の点検実施 	全事業場	○
消防法	<ul style="list-style-type: none"> 危険物保管の指定数量以上の許可申請 危険物保管の指定数量以上の危険物取扱者の届出 	全事業場	○
グリーン調達基準	自治体、元請けのグリーン調達基準	全事業場	○

(2) 違反・訴訟の有無

過去3年間以上、環境関連法規等の違反はなく、訴訟および関係機関からの指摘も受けていない。

11. 代表者による評価・見直し

《 環境活動の評価 》

2018年度の活動結果は、環境活動を開始6年目にして、初めて二酸化炭素の削減が目標達成となりました。これも、環境活動への取組み意識が浸透してきたものと思います。

ただし、自動車、重機の燃料であるガソリン及び軽油量の削減が目標未達成となっています。ガソリン使用量の増加は、計上漏れ情報の追加による増加が要因。軽油使用料の増加は、昨年同様に重機部の仕事量（受注）の増加および遠方作業の増加が主な要因と思われます。軽油原単位管理での結果を見ると、ほぼ目標達成となっています。この達成は普段より自動車の運転、重機の操作にエコ運転を心掛ける事が浸透してきた結果だと思えます。

まとめに、各部署で仕事量が増えて多忙の中、環境活動への取組み意識を持って仕事が出来ていると思えます。引き続き活発な環境活動を行っていきたいと思えます。

《 今後の対応 》

次年度は目標値の見直しを行い、目標未達成となったガソリン、軽油の使用量の削減、水の使用量の削減を中心に、引き続き環境活動の取組みを実施し、環境負荷低減に貢献したいと思えます。

1 2. 環境保全活動のご紹介

《 緑のカーテン 》

夏場、「緑のカーテン」を設置し西日による室温上昇を抑えて、空調による電気使用量を抑制。

リサイクル部



《 清掃活動 》

会社周辺の清掃活動（地域のゴミゼロ運動に協力）に全部署で参加しています。

